

「ぎふ清流国体」に向けた地域ブランド研究開発

花き部・野菜果樹部

平成24年開催の「ぎふ清流国体」に向け、県の試験研究機関と地域の産地・企業が連携して、新たなブランド製品づくりに取り組む新規プロジェクトを平成20年度から開始しています。国体開催までに研究開発を重点的に推進し、岐阜県の農産物・地場産品で『おもてなし』を行うことで、全国に岐阜の農産物・地場産品をアピールし、新たなブランドの確立を通じて産地の活性化を目指します。このうち、農業技術センターでは、3つのテーマ(花・カキ・イチゴ)に取り組んでいます。

1 りぎふオリジナル花きによる花飾り - バラ新育種育成に向けて -

当センターでは、県内切りバラ産地の活性化のために、切りバラ品種の育種を行っており、これまでに花フェスタ2005を記念した「アンジェロゼ2005」等を育成しています。ぎふ清流国体においても、それを記念したバラを発表し、会場装花や選手に贈呈する花束などに使ってもらいたいと考えています。そのため、現在は有望系統の中から絞り込みを行っています。

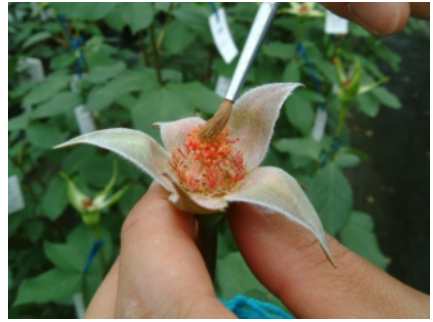
平成20年度には、その第一歩として、下記左のバラの品種登録出願を行いました。このバラは鮮やかなローズピンクで、花弁に光沢があり宝石の輝きをイメージさせることから、フランス語で宝石箱を意味する「エクラン」と命名しました。



エクラン (品種登録出願中)



バラ交配の様子
一つ一つ手作業で受粉します



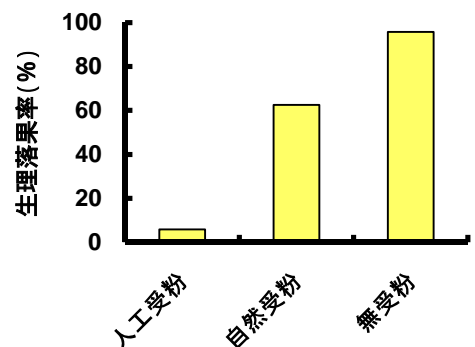
交配の様子
別の花の花粉を雌しべにつけます

2 おいしい「ぎふのカキ」づくり - 「早秋」の生産安定化 -

「早秋」は9月下旬から収穫できる早生の完全甘柿であり、県内カキ産地において導入が進められています(平成18年度栽培面積:8.7ha)。しかし、成木がまだなく栽培特性について不明瞭な部分があります。特に生理落果が多く、結実が不安定であるため、着果安定対策が急務になっています。

平成20年度は農業改良普及センターなど関係機関と連携し、生理落果防止対策として人工受粉(花粉品種「サエフジ」)と適正な樹勢管理が重要であることを明らかにしました。

平成21年度は人工受粉における適正な花粉希釈倍率など着果安定技術を確認し、完全甘柿の長期継続出荷による岐阜柿のブランド化を目指します。



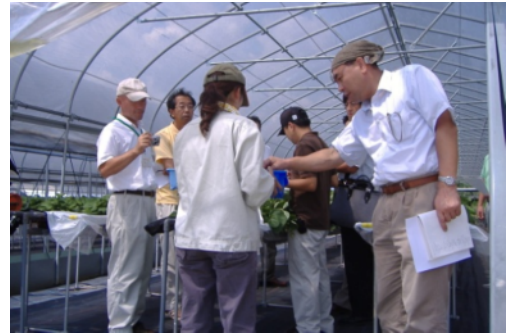
受粉方法による生理落果率の違い

3 夏秋イチゴのブランド化 - 単収2.5tを目指して -

夏秋イチゴはケーキなどに需要が高く、県内の夏冷涼な地域で栽培が定着しつつあります。しかし、産地が新しく生産が不安定であるため、生産が伸び悩んでいます。当センターではこの問題を解決するために生産者、農業改良普及センターと一体となって研究を進めています。

平成20年度は郡上市の農家ほ場で栽培技術試験や新品種育成・品種比較試験を実施し、この結果を基に栽培指針（暫定版）を作成しました。

平成21年度は高山市でも実証試験を開始しました。岐阜県の新たなブランドを創出・確立するため関係者と連携しながら一丸となって取り組んでいきます。



技術統一と情報共有のために現地検討会を開催

「ハツシモ岐阜SL」の大規模実証はじまる (作物部)

水稻新品種「ハツシモ岐阜SL」に関する動きについては、行政から実需までの関係者が参集した、新ハツシモ普及検討委員会において普及推進の検討を行った結果、平成22年度より「ハツシモ」から一斉切り替えする方針が決定されました。

この一斉切り替えを控え、当センターでは、昨年に引き続き肥料体系や栽植密度に関する研究を行うほか、省力化に向けた直播試験を新たに立ち上げ、鉄コーティングとカルパーコーティングの2種類の種子コーティング方法を検討します。

現地試験では、JA全農岐阜の強力なバックアップの下、農業改良普及センターが主導となり、岐阜・西濃地区を中心に14市町で約77ha（平成20年度実績14市町で約3.4ha）の大規模な栽培実証が行なわれます。この大規模実証を通じて、生育データを蓄積するとともに生産者への理解促進を図ります。

今年度の実証計画は、4月15日に開催されました平成21年度新ハツシモ普及検討委員会幹事会で報告され、承諾されました。



現地巡回調査の様子(H20)

イチゴ「美濃娘」の面積拡大を目指して！！ (野菜果樹部)



平成19年3月に品種登録された「美濃娘」（農業技術センター育成）の栽培面積を拡大するために県内のイチゴ生産者のリーダーやJAの担当者約100名を集め研修会を開きました（岐阜県園芸特産振興会いちご部会主催）。

農業技術センターからは、「美濃娘」の品種の特徴や栽培管理のポイントを説明した後、試食を行い、果実が甘く硬くて食感の良い「美濃娘」のPRに努めました。

今後は、「美濃娘」の県内面積シェアを15%から50%にまで増やし、主力品種の「濃姫」と併せて岐阜イチゴのブランド化を図っていきます。



職員異動のご案内

転入	新所属	旧所属	転出	新所属	旧所属
長谷川 雅也	部長研究員兼花き部長	研究開発課	平 正博	退職	部長研究員
鈴木 隆志	野菜果樹部長	西濃地域農業改良普及センター	越川 兼行	中山間農研中津川支所長	花き部長兼野菜果樹部長
松古 浩樹	花き部専門研究員	生物工学研究所	青木 克典	退職	環境部主任専門研究員
菊井 裕人	野菜果樹部専門研究員	農業大学校	市橋 秀幸	病害虫防除所飛騨支所長	環境部主任専門研究員
妙楽 崇	環境部主任研究員	病害虫防除所	加藤 克彦	研究開発課	花き部主任専門研究員
			砂川 匡	中濃地域農業改良普及センター	環境部専門研究員
			福田 富幸	中濃地域農業改良普及センター	野菜果樹部主任研究員